



## “私の挑戦”

ビジネスプラン誕生の裏側  
受賞企業紹介

### 第5回 チャレンジ部門 優秀賞 受賞

# アップサイクルを一步先へ！ 日本(京都)発のハイエンドアップサイクル材で 地域と途上国支援を目指す

プラン名

糸の廃材を用いた  
サステイナブルテキスタイル  
“和さ美”



共同代表  
水戸 大志

合同会社森林堂  
京都市西京区川島滑樋町37-10  
TEL 050-3590-3599  
https://shinrindo-kyoto.com

プロフィール  
難病等幾度の死線をくぐり、世界初(?)の戦略的放浪家として居候スタイルで地域支援をしながら世界108の国と地域を巡る。ツーリズムやアップサイクル等50以上の専門分野とユニークな肩書きをもち、模擬国連関連の大使として温暖化の取材を受け、大阪・関西万博ではザンビアの観光大臣と対談。世界各国で講演やメディア活動を行っている。



行灯の躯体はアサダメッシュ株式会社所有

私は、海外への使節団や模擬国連関連の大使の経験に加え、世界各地で学び、仕事やスポーツ・奉仕活動を独自のスタイルで行ってきました。100カ国以上を旅して培われた好奇心と人脈が未知の新素材を生み出し、今回の事業の原点となりました。

生業としてきたデザインや着物製作・捺染業に関する展示会に参加した際、廃材を生地に変える技術に出会いました。代表の森から繊維業界における残反や新品のまま廃棄される残糸の問題を聞き、この技術を用いて残糸から生地を試作したところ、色とりどりの糸が絡み合った美しいシートが出来上がりました。

これを元に、廃材提供先とのプランニング、そして廃材のトレーサビリティを実現する新たなビジネスプランを構想。さらに生地を特許申請し、試行錯誤の末、絹糸から金属までかつてない組み合わせで、意匠と機能性を持つ生地が完成しました。誕生した生地は日本独自の“わび、さび、和の美”を表し、海外の方にも日本発と認識し日本語で発音していただける「和さ美®(WASABI)」と名付けました。

生地の特性を活かしたパネル、画板や印刷メディア製作を機に、現在はランプ、ポーチ、団扇等、新たな活用方法となるプロダクトも提供しています。

私の考えるアップサイクルは、単に「マイナスからプラス」にするものではなく、アップサイクルでしか実現できない意匠や特性をもったヴァージン材以上の価値を持つ素材を製作することです。環境問題解決だけではない、日本(京都)発のハイエンドアップサイクル材という世界に誇れるアップサイクルの一步先のジャンルを確立するための挑戦だと考えています。

「知恵-1グランプリ」の受賞を機に、京都を中心に新たなつながりが生まれ、西陣織等の地域資源の活用や企業との連携が進んでいます。現在は役目を終え、廃棄される食材の残渣を活用し、これまでにない新しい生地も製作しています(特許申請中)。

将来的にはこの京都発の技術とプランで、途上国で廃棄される原料を現地で加工、ブランディングすることで、雇用創出等にご貢献したいと考えています。

👑 ビジネスプランの詳細はこちら



交流会やイベント等でのビジネスマッチングの機会を提供するほか、広報媒体での紹介による認知度向上や、地域ブランドとしての価値を高めるためのネットワーク構築をサポートします。

京商の支援



代表取締役  
安達 基朗

株式会社シュールド設計

京都市伏見区西大町313-8  
大手筋ビルウエスト1 3F  
☎ 075-644-9523  
https://www.shrewd-sekkei.com

プロフィール

ソフトウェアの専門学校を卒業後、駅務機器のソフト開発企業に勤務。その後、カーナビゲーションや携帯開発等に携わり、2012年に独立して3Dスキャナ測定サービスを開始。2014年に3Dスキャン・モデリングサービスを主事業とする株式会社シュールド設計を設立し、点群ソフト開発を開始。計測と開発を合わせた事業を展開中。



プラン名  
現場管理ソフト「SPOT360」の  
業界特化型機能の開発

「現場管理ソフト「SPOT360」の業界特化型機能の開発」

現実世界のデータを基に、デジタル仮想空間上に双子（ツイン）を構築し、さまざまなシミュレーションを行う技術を「デジタルツイン」といいます。私はこの概念がまだ一般的でなかった時代に、プラントメンテナンスの現場の方から「現場を3Dグラフィックで管理したい」という要望をいただいたことが、独立起業の契機となりました。

プラントは経年変化や改修により、元の図面とは異なる形になっていきます。現場では安全性や人手不足解消のための効率化が求められ、目視で確認できない箇所を含めて「見える化」する技術の必要性が高まってきました。それを実現する大きな力となったのが、3次元点群の可視化を研究されていた立命館大学の田中寛教授との出会いです。ニッチな分野のため苦勞も多かったですが、3Dスキャナーの価格が下がりはじめたタイミングとも重なり、開発が大きく進みました。

第5回イノベーション部門 グランプリ 受賞

DXはオフィスだけではなく！  
現場で使える「デジタルツイン」を目指して

360度カメラを活用した「SPOT360」を開発しました。これは、360度映像と見取り図、資料等のデータをリンクさせ、現場をリアルタイムで直感的に管理できる仕組みです。一般的なデスクのPCブラウザ等で利用できるようにしました。

このSPOT360を軸にしたデータ管理の可能性は無限にあり、受賞プランにとどまらず、これからも顧客の声を聴きながら、現場で使いやすい製品へと機能強化を進めていきたいと考えています。

「自分が作りたいもの」ではなく「お客様の困りごと」から開発するのが私のモットー。今後は受託開発だけでなく、さまざまな現場で役立つ汎用性のある自社製品をブラッシュアップし、販売を強化することが目標です。DXはオフィス部門だけでなく現場にも必要です。現場の安全性や効率化を実現する私たちの技術を多くの方に知っていただき、若い世代にもこの業界に憧れをもってもらえるよう、挑戦を続けていきます。

👑 ビジネスプランの詳細はこちら



異業種交流会でさまざまな企業とのつながりや協業のきっかけづくりを支援します。さらに、動画やSNS等を使用した広報支援を通じて、同社の取り組みを広く周知します。

京商の支援